

基準地震動を解く

伊方原発

四国電力伊方原発の基準地震動570μは、調査に基づいて活断層の位置や形状で原発に最も影響が大きくなるよう計算した「断層モデル」と（小規模な地震観測記録から大規模地震の波形を合成してつくり出す）経験的な方法で総合的に決めている。

基準地震動は計算で出した一番大きい揺れの値のように思われることがあるが、そうではない。（四国電力原子力規制委員会に提出した）資料を見る限り、570μじゃないといかないという根拠はほとんどない。

地震動評価の計算は新

3 京都大名譽教授 入倉 孝次郎氏



いりくら・こうじろう 68年京都大大学院理学研究科・地球物理学専攻博士課程中退。同大副学長や日本地震学会会長などを歴任。01～12年、内閣府原子力安全委員会専門委員。強震動地震学。73歳。

余裕ある設計 確認重要

がずれた時のエネルギー使って計算方法を提案し（をみず）応力降下させた。できたが、これは地震の判断だ。四電は570μの評価に最も影響を与える平均値を求めるもの。平均で、（四電が不確かさ）均かされた地震はいくを考慮して）1・5倍にらでもあり、断層そのものをチェックした。基準地震動を上げれば設備を全て調べ直さないといいなので大発せう。しかし、基準地震動を一語聞いてところを探すと、それほど余裕がなかった。これは重要なポイントで、規制委の審査できちんと示されるだろう。

しい論文を参考にしており、恣意（しい）的な部分はある（しい）的な部分はない。570μはあくまで目安。私は科学的な式をけ余裕を持って決めた方がいいので大発せう。しかし、基準地震動を670μのままにして、それを多少超す地震が来たとしてもすぐ壊れることはないと思う。680工学などの十分な知見をがとしていた女川原発持った人がちゃんとチェック（宮城県）でも、東日本大震災のときに600μを越す地震動だったが長代理がいるが、全ての耐えられた。伊方でも地震のことを知っているれぐらいの余裕は持ってわけじゃない。だからサ道られているはず。基準ボトする人が必要にな大丈夫なように余裕のある設計が行われるべき（聞き手・藤中潤、阪和

重要なのはこの余裕を確保することだ。旧原子力安全委員会の耐震バックチェックでも裕度の計算はやってきたが、民主党政権時に行ったストレステスト（耐性評価）で